

2019年12月期 第3四半期決算説明会 質疑応答の要約

2019年11月12日（火）開催した決算説明会において、参加者の皆さまから頂いた質問をまとめたものです。GMOインターネット 代表取締役会長兼社長・グループ代表の熊谷より回答させていただきました。また、一部IR部門にて回答を補足させていただいております。

●ネットインフラ事業について

【Q1】 インフラ事業の利益改善が続いているが要因は何か？先行投資に対する考え方と、今後も収益性は更に改善していく傾向にあるのかについて教えてほしい。

【A1】 インフラは各商材がNo.1商材となっており、まずそれぞれで規模の経済が効いてきている。さらに商材間のシナジーが効き、総合力で収益力が上がってきています。各サービスにおける細かいサービスの投入は続いていますが、おおよそ再投資の範囲内であり、インフラ事業の構造を変えるような大きな投資は今のところ考えていません。結果として収益率の改善傾向は今後も続くと考えています。

●ネット広告メディア事業について

【Q2】 広告・メディア事業は「V字回復」を期初から掲げているが、トレンドからすると微増くらいが現実的なラインかと考えるがどうか？

【A2】 ご指摘の通り「V字回復」とは言い難い状況となっております。決してこれを許容しているわけではありません。セグメント全体で見ると、好不調の部門が混在している状況で、広告の中では『AkaNe』など自社アドテク商材が育ってきているものの、メディアはダウントレンドが続いてしまっています。こうした中、自社商材を拡充するという方針に変わりはありません。メディアは自社メディアの開発に注力し、広告ではGAFAの商材とともに、自社アドテク商材をご利用いただくような流れを作っていきたいと考えています。

●金融事業について

【Q3】 FXで「ドル円スプレッドを引き下げ」とあるがキャンペーンなど一時的なものか？

【A3】 一時的なキャンペーンではなく、これまでの0.3銭から0.2銭に引き下げ、更にマーケットシェアを広げていく戦略です。

●仮想通貨事業について

【Q4】 マイニングについて、「ハッシュレートは4Qをボトムに年明けから上昇」との見通しがなされたが、規模感含め今後の改善イメージを教えてください。

【A4】 19.4Qをボトムに20.1Q中に従来のハッシュレートの水準まで回復する見通しを持っています。なお、20.2Q以降には採掘されるBTCが半分となる半減期を控えており、単純に考えると収益性が1/2となってしまう計算になります。このため、コスト競争力がより重要な局面になると考えています。この点、当社は安価な電力の調達ができおり、コスト優位性がある

GMO INTERNET

と考えています。競合他社が採算性が合わずデータセンターの稼働をやめてしまうと当社の相対シェアは上昇し、収益性も上昇することとなります。

【Q5】 ステーブルコインについては、Facebookの「リブラ」や、中国人民銀行の動きなどデジタル通貨をめぐる状況に変化があるが、GYENの発行計画に変更はないのか？

【A5】 昨年度発表した「2019年内にステーブルコインを発行する」という当初計画から変更はありません。適切な手続きを経て発行すべく、現在調整中です。

●その他

【Q6】 渋谷フクラス移転に伴うコスト、大規模テックカンファレンス実施コストはそれぞれの程度を見込んでいるのか？

【A6】 引っ越し、二重家賃に関して2～3億円の特損を4Qに見込んでいます。また、移転に伴う家賃の上昇分については年間8～9億程度となる見通しです。テックカンファレンスについては若干のマーケティングコストを予定しているものの、現状の業績規模からすると誤差の範囲と考えています。

以上